

## 【短報】久米島から水生甲虫2種を記録

久米島から初記録となる水生甲虫2種を採集したので報告する。標本は基本的に筆者が保管しているが、一部については専門家に供与し、標本データ末尾の括弧内にその旨を示した。

サメハダマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus stridulus* Bistrom (図1)

稲畑 (2016) により日本から記録された種で、その後、渡部ら (2016) により石川県から記録され、国内に広く分布することが示唆された。沖縄諸島では沖縄本島から記録されていたが、周辺の島からの記録はなかった。水草の豊富な池から得られた。



図1. 久米島産サメハダマルケシゲンゴロウ.

1♂, 久米島ホテル館敷地内の池, 24. VI. 2017.

オキナワシジミガムシ *Laccobius (Microlaccobius) nakanei* Gentili (図2)

上手 (2007) によると、沖永良部島、沖縄本島、宮古島から記録がある(奄美大島、徳之島の記録は不確定)。主に平地から山地の流水域に生息するとあるが(上手, 2007), 今回は滝の飛沫帯でのみ採集された。生息地での個体数は多い。



図2. 久米島産オキナワシジミガムシ.

16♂21♀, ミーフガー付近の滝, 25. VI. 2017; 8♂7♀, タチジャミ付近の滝, 25. VI. 2017 (上手雄貴博士保管)。

末筆ながら、同定結果の確認をしていただいた日本甲虫学会の稲畑憲昭氏, 名古屋市衛生研究所の上手雄貴博士, 現地情報および敷地内での採集

を快諾いただいた久米島ホテル館の佐藤文保館長に厚く御礼申し上げる。

## 引用文献

- 上手雄貴, 2007. 日本産シジミガムシ属. 昆虫と自然, 42(2): 12-16.  
 稲畑憲昭, 2016. サメハダマルケシゲンゴロウの日本からの初記録. さやばねニューシリーズ, (21): 46-47.  
 渡部晃平・富沢 章・稲畑憲昭, 2016. 本州におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (23): 15-16.

(司村宜祥 226-0027 横浜市緑区長津田 2-38-14-106)

## 【短報】地表ピットホールトラップによるオオチャイロハナムグリの採集事例

オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* Lewis, 1887 は、甲虫目コガネムシ科に属し、日本固有種であり、本州、四国、九州、屋久島に分布し、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧に、2015年度版京都府レッドデータブックでは要注目種に指定されている。京都府では京都大学芦生研究林と右京区の愛宕山から採集された記録がある(京都府自然環境保全課, 2015)。

本種が属する *Osmoderma* 属は、主に巨木にあいた樹洞に生息し、羽化した個体が他の樹洞に分散することが知られている (Maurizi *et al.*, 2017)。

今回、京都大学芦生研究林内において、地表面に設置したピットホールトラップによって本種が採集されたので報告する。

1ex., 京都府南丹市美山町芦生, 24. VIII. 2017.

今回の調査では谷線、尾根線沿いに 10 m 間隔で計 120 個のピットホール (内径 7 cm) を 2017 年 8 月 20 日から 8 月 24 日までの 4 日間設置し、そのうち 1 個から本種が採集された。



図1-2. 今回設置したピットホールトラップ (1) と採集されたオオチャイロハナムグリ (2)。

ヨーロッパにおいて本種の近縁種を樹洞に仕掛けたピットホールトラップを用いて採集する方法はよく用いられているが (Maurizi *et al.*, 2017), 今回のように地表面に埋めたピットホールトラップで本種を採集できた事例は未だに報告されていない。

今回仕掛けたピットホールトラップは写真のように屋根を設置したため (図1), 飛翔していた個体が直接ピットホールトラップの中に入った可能性は低く, 本種が地表を徘徊していた際トラップに落下した可能性が高い。近縁種である *O. eremita* において樹洞だけでなく地表面で活動していることが報告されているが (Chiari *et al.*, 2013), 本種においてはそのような報告は未だになく, 今後研究が進むにつれ, 本種の新たな生態が明らかになるかもしれない。

末尾ながら, ピットホールトラップの設置に協力していただいた京都大学農学研究科森林科学専攻森林生物学研究室の山崎理正助教, 本文の作成に協力していただいた同研究の加藤雅也氏に厚く御礼申し上げます。

#### 引用文献

- Maurizi, E., A. Campanaro, S. Chiari, M. Maura, F. Mosconi, S. Sabatelli, A. Zauli, P. Audisio and G. M. Carpaneto, 2017. Guidelines for the monitoring of *Osmoderma eremita* and closely related species. *Nature Conservation*, 20: 79–128.
- Chiari, S., Carpaneto, G. M., Zauli, A., Zirpoli, G. M., Audisio, P., & Ranius, T., 2013. Dispersal patterns of a saproxylic beetle, *Osmoderma eremita*, in Mediterranean woodlands. *Insect Conservation and Diversity*, 6(3): 309–318.
- 京都府自然環境保全課, 2015. 京都府レッドデータブック 2015 第一巻 野生動物編. 京都府自然環境保全課, : 366.

(相場寿秀 606-8502 京都市左京区北白川追分町  
京都大学農学研究科森林科学専攻  
森林生物学研究室)

#### 【短報】成虫越冬するハナムグリ2種を確認

筆者は冬季のオサ掘り採集時に, コアオハナムグリとクロハナムグリの成虫を土中より得た。これらのハナムグリが成虫越冬することは知られているが (木村, 1967; 三村, 2011; 酒井, 2012 など), 観察例の報告は少ないようなので, 一例として報告しておく。

コアオハナムグリ *Gametis jucunda* (Faldermann)

1 ex., 岡山県高梁市玉川町玉, 17. XII. 2017, 奥島雄一採集, 倉敷市立自然史博物館保管 (登録番号 KURA JI 153989)。



図1. 土中から掘り出されたコアオハナムグリ。

クロハナムグリ *Glycyphana fulvistemma* Motschulsky  
1 ex., 同上 (KURA JI 153990)。

現場は, 標高約 300m の日当たりの良い西側斜面で, 伐採のために一時的に作られた林道沿いの腰下程度の小規模な崖である。土質は花崗岩が風化した真砂土で, やせた土壌である。2種のハナムグリは数メートル内の別の場所から, 崖の上部を崩した際にそれぞれ単独で得られた。付近に幼虫が生育できるような腐食はなく, 成虫が活動後に越冬のために潜ったものと考えられる。なお, 付近の同様の環境からはスジアオゴミムシ *Chlaenius costiger* Chaudoir が6頭得られた。

末筆ながら, 2種のハナムグリの越冬記録について文献をご教示いただき, 記録の報告を勧めていただいた酒井香氏 (東京都) に厚くお礼申し上げます。

#### 引用文献

- 木村欣二, 1967. オサ屋外道録 (II) (主として甲虫類の冬期採集記録), クワガタムシ科, クロツヤムシ科, センチコガネ科, コガネムシ科について. *Insect Magazine*, 東京, (71): 64–68.
- 三村義友, 2011. 初冬の土中から越冬中のコアオハナムグリを採集. *鯉角通信*, 東京, (23): 32.
- 酒井 香, 2012. ハナムグリ亜科 CETONINAE. 日本産コガネムシ上科標準図鑑, pp. 68–74, 308–320. 学研教育出版, 東京.

(奥島雄一 710-0046 倉敷市中央 2-6-1  
倉敷市立自然史博物館)